

# 令和2年新春 講演会・産学官交流会

(令和2年1月23日)

1月23日(木)にホテルセントヒル長崎にて「令和2年新春講演会・産学官交流会」を開催しました。

同会場の3階「紫陽花の間」で「我が社の一押し講演」、及び「特別講演」を開催後、2階「妙見の間」にて産学官交流会を開催しました。

長崎県産業労働部、長崎県総務部、長崎市商工部、長崎県警察本部、長崎県産業振興財団、長崎県工業技術センター、長崎工業会、中央会、JETORO、ながさき地域政策研究所、長崎出島インキュベータ(D-FLAG)の方々を始め、長崎大学、県立大学、総合科学大学、佐世保高専より、110名を超える多数のご来席を戴き、地域発展につながる交流と懇親の場を持つことができました。

## ◆ 主催者挨拶



(一社)長崎県情報産業協会(NISA)  
会長 中野 一英

## ◆ 「産学官交流会」ご来賓ご挨拶

ご来賓を代表して、長崎県産業労働部 村田様、長崎市商工部 長谷崎様よりご挨拶を戴きました。

また、乾杯の音頭を長崎大学教授 小林様、中締め音頭を長崎県産業振興財団 西村様より戴きました。



長崎県産業労働部  
次長 村田 誠様



長崎市商工部  
理事 長谷崎 耕蔵様



長崎大学大学院 工学研究科  
教授 小林 透様



長崎県産業振興財団  
専務理事 西村 一宏様

## ◆ 「新春講演会」・「産学官交流会」スナップ



新春講演会 ホテルセントヒル長崎 (3F 紫陽花の間)



産学官交流会 ホテルセントヒル長崎 (2F 妙見の間)



産学官交流会 ホテルセントヒル長崎 (2F 妙見の間)



産学官交流会 ホテルセントヒル長崎 (2F 妙見の間)

# 「新春講演会」 (令和2年1月23日)

演題『これからの経営の新基準～SDGsを戦略的に活用する経営とは～』



講師 株式会社ビーコンラーニングサービス  
代表取締役社長 近藤 雅人様



「SDGs」は、2015年に国連で採択された世界を変えるための目標であり、17個の目標で構成されています。

今や「SDGsは“知る”から“行動する”フェーズに変わってきた」と言われています。

2015年9月に国連で採択されたSDGsは、いまや多くの企業や自治体がCSR報告書や中期計画、ホームページ等に掲げるようになりました。

しかし、掲げているだけで実態が伴わない組織、取り組んではいるが成果につがっていない組織が少なくありません。

「環境」、「社会」、「事業」の3つの持続可能性を実現する経営にシフトしていくまでにはいくつかのステージがあり、そのステージを上る必要があります。

そのステージを上げていくためには「なぜ自組織はSDGsに取り組むのか」、「今、自組織はどの段階にいるのか」を確認し、適切な手立てを選ぶことが早道です。

SDGsの概要とうまく取り組まれている事例をもとに、事業の持続的成長と企業価値向上のために不可欠なサステナビリティの考え方について理解を深めて頂きます。

「SDGs」(Sustainable Development Goals)とは、2030年までに解決を目指す「17個の世界共通の目標」です。世界は、人口の爆発的な増加で、資源の枯渇が始まると資源の奪い合いが起こります。これらに対して「SDGs」の活動を世界で足並みをそろえて解決して行く必要が」あります。

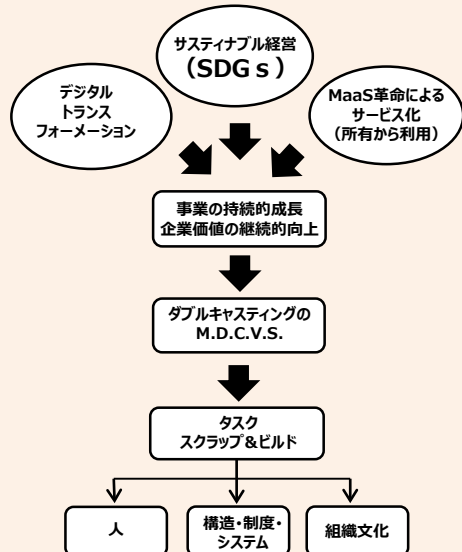
日本は人口減少、少子高齢化が急速に進んでおり、そのため人口減少に歯止めをかけ、中長期的な成長を目指すためには「地方創生」を実現するための活動と「SDGsの達成に向けた取り組み」が重要です。

サステナビリティ(持続可能性)は、経営戦略そのものであり、その取り組みは、現場がその気にならなければ、上層部だけでは実現できません。

経営責任として「事業の持続的成長」が重要であり、大きなインパクトとして変化が伴います。変化は、向き合い方を誤れば脅威になりますが、向き合い方を変えればチャンスにもなります。

「SDGs」を活用して社会への影響を理解することで、適切な優先順位付けを行い、活動に取り組めます。

## 経営への3大インパクト



## 【講師略歴】

大学卒業後、株式会社ビジネスコンサルタントに入社、様々な拠点での経験を経て、営業部隊約200名をまとめる営業部長に就任。その後、コンサルタント部門に移籍し年間平均50組織以上、200日以上講師経験を積み、実施した数多くの組織で高い評価を得ています。その後、取締役、常務取締役に就任。2019年に株式会社ビーコンラーニングサービス代表取締役社長に就任。コンサルタントとしての特徴は2点です。

- ①官公庁・民間企業での研修講師実績が豊富。
- ②営業部長・取締役・執行役員といった組織の重責を担当。

実務として多数のプロジェクトや新規事業の立ち上げなどを行った経験があり、この経験を活かしたご支援の実績が多数あります。



# 「わが社の一押し」発表 (令和2年1月23日)

## ■株式会社 亀山電機

### 演題『IoTを活用した予知・予防保全システム』



製造業で連続稼働する機械装置においては、劣化による性能低下、装置の故障・停止の予防として、定期メンテナンスによる対策がとられています。

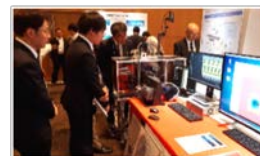
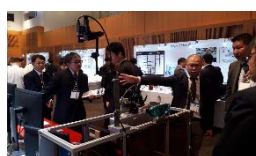
IoTを活用し、各種データを計測・監視・分析、故障を予知・予防保全することで、故障発生リスクの低減、メンテナンスコストの最適化が図れます。

講師 (株) 亀山電機 総務部長 前田 康太郎様

【1】「IoTを活用したベルトコンベアの予知保全システム」を4社合同でPoC(Proof of Concept: 実証実験)を実施しました。4社の役割りは次の通りです。

- ① 亀山電機: PoC主体、事業化検討
- ② キャノンITS: 画像取得、分析、特徴量の抽出
- ③ toor: 多変量データMAP化エンジン、toorPIAの提供
- ④ サイバネット: ビッグデータ可視化、分析システム、BIGDAT@Viewerの提供

【3】2019年10月17日にアクロス福岡で開催された「火力原子力発電九州大会」で本システムを技術展示しました。



【2】クラウドコンピューティングの活用により、各地で計測したデータを管理事務所で一括して集中監視ができるようにしました。

【4】今後の課題としては、通信改善のほか、ディープラーニングによる特徴量を自動的に抽出して処理方法の自動学習によるデータ精度向上などを改善するため、佐世保高専とディープラーニングの共同研究を進めています。

## ■九州教具株式会社

### 演題『ICTを活用したホスピタリティの向上』



講師 九州教具(株) 経営管理本部 社長室長 岡村 雅彦様

九州教具Q-bicホテルズでは、社内インフラ、お客様サービスの分野で様々な課題を抱えています。それらの課題解決のひとつとして、ホテルインフラの進化、サーバー・PC端末のアップグレード、自動チェックイン機導入などICTを活用した取り組みについてご紹介いたします。

【1】九州教具(株) グループの紹介

- ① Q-bicソリューションズ
- ② ウォーターネット
- ③ Q-bicホテルズ
  - ・ホテルベルビュー長崎出島
  - ・ホテルウイングポート長崎
  - ・ホテルクオーレ長崎駅前
  - ・ホテルブリスヴィラ波佐見

【2】ホテルインフラの進化

- ① リモートネットワーク管理システム
- ② 自動チェックイン機導入
  - ・予約確認、検索登録
  - ・支払い清算
  - ・パスポートスキャン
  - ・カードキー発行
  - ・5言語対応

【3】課題と対策

- ① 客室エンタメのアップグレード
  - ・huluネットTV
  - ・4K VOD
  - ・館内案内・観光案内
- ② インバウンド客増加への対応
  - ・外国人従業員(JIN XIN氏)採用
  - ・ネイティブ言語での対応(日本語、英語、中国語対応)